

今月の新刊

社会教育センター図書室
28・5449



児童書
うさぎくんとママ (幼児向け)
リチャード・スキヤリー 作
(好学社)

元氣いっぱいのおうさぎくんは、朝からパパのじゃまをしたり、食べ物をごぼしたり。パパと「いい子にしてる」と約束したのに、ママを困らせてばかりで…。やんちゃな男の子とそんな息子に手を焼くママの姿に、ほのぼのするお話。



一般書
生活者の平成30年史
博報堂生活総合研究所 著
(日本経済新聞出版社)

時代認識、消費観、家族のカたち、子ども・高齢者の意識…。平成の30年で生活者は大きく変化した。膨大な調査データをもとに、平成という時代を人間の意識や行動、価値観の側から振り返る。



一般書
なんでも、漬けもの。
河井 美歩 著
(主婦と生活社)

野菜、肉、魚介…。食材はなんでも漬けものにして、無駄なく使いきりましょう！酢やしょうゆ、油など、家にあるいつもの調味料で、短時間に作れる漬けものを142品掲載。おすすめの調味料&保存容器も紹介します。



一般書
ザ・ウォール 球場 瞬一
堂場 瞬一 著
(実業の日本社)

周囲に新宿の高層ビルがそびえ立つザ・ウォールは、大リーグ好きオーナーの意向が盛り込まれた変形スタジアム。かつての名門「スターズ」は、打者有利の球場に四苦八苦しつ、堅実な采配で試合に挑むが…。

豊山俳句クラブ 青山克己 選

荒北風や舳先軋めく船溜り 岡島 齋

大寒の少し明るき空の色 坪井怪子

どうすることも出来ぬ淋しさ寒島 青山とも子

袋からひよつこり出し春の色 水野眞弓

母の味 畦に見つけし路のたう 黒澤裕子

如月に身の丈ほどの暮しかな 高木須磨子

街灯と月とオリオン帰り道 山下敬太

閉ざされし扉の奥の寒さかな 田村多喜子

寒雀百羽につつき百羽たつ 坪井昭子

冬の海染める平らな夕日かな 谷崎 琴

マフラーにつきし枯葉とバスを待つ 東海林宗義

蒼天にひかりあつめて山眠る 杉浦みどり

春寒や空き家となりし両隣 石黒貴代子

半島の切つ先冬のうねりかな 青山克己

豊山歌壇 水野笑子 選

足腰の痛み覚ゆるこの日頃 柴田満枝

年取る事は行く道と知る 鈴木久子

玉砂利を踏みしめて行く神宮の 寒空の下夫と寄り添ふ 鈴木久子

今年こそ災ひ無き年をと願ふなり 鈴木弘香

初春の空夫と見上げて 中澤芳子

宅急便を解けばりんごの甘き香と 炎暑に台風不出来のメモあり 水谷弘子

旧姓に呼びかけ呉れし賀状なり 故里恋ほしもあの友この友 水野勝代

成人の孫の成長嬉しくて 残る命の糧にしたさと 山田 米

来年の指揮者ネルソン如何かと 吾が齢思はぬ能天気者 渡辺トヨ子

いつしかに遠くなりゆく昭和・平成 終るとのこと新年来たる 荒川昌枝

温暖化の顕著な被害出てゐるも 大國の指導者そに逆らひぬ 一柳千鶴子

悪しきことみな忘れやう雪の朝 轡ふたすぢくつきり伸びる

編集後記

リニューアルした広報の第1号は、平成最後の広報とよやまである。平成が始まった約30年前の広報を紐解いてみると、文化スポーツ施設の整備を掲げる「シビックセンター構想」の推進中であることが分かる。当時の人口は約1万3千5百人。予算規模は特別会計も合わせて約50億円とある▼昭和63年の社会教育センター開館に続き、平成3年には豊山スカイプール、豊山グラウンドが完成した。いうまでもなく、これらの施設の恩恵は大きい。数多くの町民が集い、交流を重ねてきた。その後も施設の整備とともに人口は増え、平成の間人口は1万5千人を突破し、予算規模は倍以上にまでなった。本町にとって平成は、発展の時代だったといえよう▼今年度は、今後のまちづくりの指針である第5次総合計画と都市計画の基本方針を定める都市計画マスタープランを策定する。給食センターの建替えといった大胆な投資も行う。防災や防犯、子育て支援といった時代の要請にもきめ細かく対応する予算編成を行った▼これから始まる新たな時代。30年後の豊山も、希望と活気にあふれたまちにしていきたい。